

## 第1回 信州型健康ゼロエネ住宅（仮称）推進指針検討専門委員会 議事録（要旨）

◆開催日時 令和3年3月25日（木）14時から16時まで

### ◆参加者

専門委員 高村委員長、新井委員、大蔵委員、川島委員、古後委員、高寺委員、中山委員

アドバイザー 竹内アドバイザー

県関係 健康増進課 北澤主任

ゼロカーボン推進室 柳原ゼロカーボン推進室長、太田省エネルギー係長

県産材利用推進室 久保田課長補佐

建築住宅課 小林建築住宅課長、久保田主任専門指導員、  
清水課長補佐兼建築企画係長、土屋課長補佐兼指導審査係長、  
塩川主任、花岡技師

### ◆議事（要旨）

《住まいづくりへの想い、考え方等》

#### ■高村委員長（学識）

- ・ライフサイクルアセスメント（LCA）に則った家づくり  
⇒建築資材からのCO<sub>2</sub>排出量への考慮
- ・地域性（地場産材、バイオマスエネルギー）を十二分に考慮
- ・今まで捨てられていた再生可能な下水熱などを有効活用
- ・太陽光発電の適切な容量選定
- ・レジリエンスの考え方も重要

#### ■新井委員（設計）

- ・地域材の活用が一丁目一番地
- ・構造を標準化（プロトタイプ化）して作りやすく
- ・（コロナ禍において）敷地内で住生活をたのしむことが重要
- ・性能のみを追求（四角くて、片流れの急こう配な屋根の家づくり）するのではなく信州らしさをどのように取り入れるかが必要
- ・地域工務店自体がプロトタイプを持つ
- ・「ハコ」でなく「バ」をつくる

#### ■大蔵委員（施工）

- ・構造体、断熱材は仕様を標準化している
- ・全棟ZEH（U<sub>A</sub>値は概ね0.35）

#### ■川島委員（設計）

- ・施主とのコミュニケーションを密に取りながら建築計画をする
- ・施工時も施主に関わってもらおう
- ・地域の風習・風土を理解して設計

#### ■古後委員（住宅審議会）

- ・環境面を配慮する方は、コスト面を重視している傾向が強いと感じている
- ・新築よりもリノベーション
- ・可変的な住まい方が重要
- ・住まい手と建物がより近い環境の創出

#### ■高寺委員（施工）

- ・“ゼロエネ”にこだわっているのではなく、設計・施工の際に施主とコミュニケーションをとりつつ楽しみながら家づくりをする
- ・住んで快適な家づくり
- ・性能のよい家づくりに施主を誘導することが課題（コスト面で断られることが多い）

#### ■竹内アドバイザー

- ・委員の皆様は先進的に取り組んでいる
- ・長野らしさはとても大事
- ・断熱性能を向上させないと、創エネに頼る部分が非常に多くなってしまう
- ・県の取組は非常に先進的、住宅の断熱基準はとても大事であるが、太陽光と併せてバイオマスの活用も考慮していく必要がある
- ・リノベーションが非常に大事、既存の住宅へのアプローチがゼロカーボンへの肝
- ・バイオマスエネルギーを産業として創出できれば、より信州らしさが出てくるのでは

#### ■中山委員（施工）

- ・主婦目線で、家事動線を考慮
- ・健康のことを考えて省エネに取り組んでいる

#### 《目指す住宅像に関する意見交換》

（新井委員）

- ・「性能」は計算で出てくる定量的な数値、「信州らしさ」は定性的な数値であり、ここに切り込まないと施主へ訴求されない。
- ・工務店は1つ1つ違うものを作っていかなければならない。
- ・定番（プロトタイプ）をもてるような、ダイレクトに伝えられるような仕組みも必要と考える。
- ・（基準としては、）ZEH基準では低く、G2レベルを目標に少なくともG1レベル（0.4前後）

（大蔵委員）

- ・自社としてはG1～G2（0.34～0.4程度）
- ・南側はしっかり底を出し、日射取得を考慮して窓を大きくする。
- ・地域性を考慮したデザインが違うのは当たり前だが、地域性を考慮した基準を決めていった方がよい

(竹内アドバイザー)

- ・ゼロカーボンを目指すには、みなさんがやっていることより少し上を目指すか目指さないか
- ・つまり、付加断熱をするかしないか
- ・付加断熱を前提のG2を一つの基準にしたほうがよいのでは
- ・ベーシックはなくした方がよいのでは（ベーシックだからいいというメッセージがあるのは危険）
- ・東京大学前准教授のPDFとYOUチューブを見てほしい
- ・鳥取県のNEST（職員のプレゼン）を見てほしい

(新井委員)

- ・断熱性能と木質バイオマスエネルギー、太陽光の熱取得を併せてマトリックス表でわかりやすく提示できるようにしたらいい。

(竹内アドバイザー)

- ・設備機器の観点（生だきの潜熱回収型ではない給湯器を使えなくするとか）

(新井委員)

- ・性能を向上させることによるイニシャルコストの高騰について、コストだけを施主に提示するのは疑問。家づくりトータルでこのくらいの金額という提示の方がよいのでは。
- ・今の施主は、意識の高い設計者に頼めばそれなりの性能はついてくると思っている。

(古後委員)

- ・数値や具体的な金額が出てくるとそこが一人歩きしてしまう
- ・信州らしさという場面でも、数字が先走ると景観を壊されるそのような方向に進んでしまうのではないかと感じる。「らしさ」をうまく表現できるものがないか。

(高寺委員)

- ・施工精度が職人にも行き届いていないと（設計の）数字が良くても実際はお粗末なつくりになることもある。職人の意識も向いていないと難しい。

(高村委員長)

- ・施工時の性能担保は一つの課題

(川島委員)

- ・パターンをいくつか出して考えていくことはいかがか。
- ・薪ストーブを採用できる地区とできない地区がある。
- ・温泉が出る地区のどういう設備が入れられるか（湯気対策）
- ・歴史的な建築物への省エネ対策

(竹内アドバイザー)

- ・「断熱性能」と「信州らしさ」を分けた方がよい
- ・「信州らしさ」と「性能」は共存できるはず

(新井委員)

- ・ 躯体の性能を上げた上での信州らしさが必要
- ・ 信州らしさは定量化できないと考える。  
⇒ 信州型型式認定工務店、C A S B E E 的 (U<sub>A</sub> 値の計算のみではのってこないもの) な評価基準にあてはまる工務店

(竹内アドバイザー)

- ・ 四角のハコに小さい窓というものが良いとは思ってなくて、バイオマスエネルギー等の考慮もあった方が良く思う。
- ・ 長野県だからやっているものを評価できるようにしたらよいと思う。

(古後委員)

- ・ 工務店に対する勉強の機会の創出、宣伝広告
- ・ それを施主が理解できる、そのような流れが必要

(中山委員)

- ・ あとから更新しづらい部分については、高性能なものを提案している
- ・ コロナ禍で心安らぐ家づくりが大切と感じる

《その他》

- ・ 提示した事務局資料について意見なし  
(目指す住宅像の論点等、条例改正の方向性)